

# ズームアップ

第8回

会員の代表として商工会議所の運営と地域経済活動を推進している議員の横顔を紹介します。  
第8回は、常議員の見延和俊氏にお話を伺いました。

## 社会インフラとしての物流を支える



北海道通運株式会社  
取締役社長

見延 和俊 氏

(小樽商工会議所企画・政策委員長)

令和1年11月 議員就任  
令和3年11月 企画・政策委員長  
趣味 ゴルフ、自転車ロードレース、料理

### ●東京時代

札幌生まれですが、札幌と小樽を転居で行き来して、中学、高校は小樽で通いました。関東の大学で社会心理学を専攻し、ゲーム理論を学びました。利害の一致しない人々がどのように意思決定するかを分析する学問ですが、パソコンでシミュレーションする実験用のプログラムを作り、そのプログラムの仕様書が卒論になりました。卒業後は東京の日本経済新聞関連の広告代理店に勤めました。ちょうどバブル経済の時期で、山のようには広告の仕事があり大変な毎日でしたが、入社5年後にバブルが弾け、広告業界も低調となりました。さらに5年勤め社会人10年をケジメとして北海道に戻り、北海道通運に入社しました。

### ●会社について

北海道通運は、戦前、祖父が始めた港湾荷役会社が前身になります。その後、鉄道小荷物や貨車から降ろした荷物を馬車で運ぶ運輸業に転換し、小樽の街の発展の歴史を辿るような会社の一つでした。戦時統合で祖父の会社を始め多くの運輸業者が統合されましたが、戦後に統合が解除され、再起して始めたのが現在の会社です。当社は、北海道から主に食糧農産品や酪農製品などをトレーラーで運び、本州からは菓子類をはじめ常温で

運べるものは何でも運んでいます。また全国の通運事業者と連携して行うJRコンテナの集配事業も柱の一つです。

### ●人手不足について

当社でも人手不足は深刻ですが、現状はドライバーよりも営業・事務職が足りていないと感じています。事業所自体が公共交通では不便な港湾地区や工業団地の中、倉庫街などにあり、また数名の小さな所帯で運営していますので、そこで実務経験を積み上げていくのはなかなか若者には耐えがたい部分もあるのかなと思います。会社としてはワンオンワンミーティングなどで職場のコミュニケーションを活性化させ、離職防止や就業意欲の亢進に務めています。

### ●北海道の物流について

新幹線の札幌延伸は北海道経済の起爆剤として待ち望まれるものですが、同時にその時点で並行在来線となる線路の存廃の問題でもあります。最悪の場合は北海道からJRのコンテナ輸送が消えてしまふといった北海道物流に係わる大きな問題も抱えていますので、北海道商工会議所連合会では、北海道の物流問題について情報を発信してくれています。経済を支えるインフラとして物流の議論がもっと進めば良いと思っています。